

総合教育会議日程

1 日時

令和6年1月30日（火） 午前10時00分

2 場所

第1委員会室（庁舎17階）

3 日程

協議・調整事項

墨田区教育施策大綱に係る教育課題について

- ・自己肯定感について（～子どもたちの自己肯定感を高めるためには～）

2-1 「高校生の生活と意識に関する調査」における国際比較

資料1

日本の子供たちの自己肯定感(「人並みの能力がある」、「ダメな人間だと思うことがある」)は諸外国に比べ低い状況であるが、前回調査に比べると肯定的な回答が増加し、否定的な回答が減少している。

[平成29年6月22日中央教育審議会資料より抜粋]

図1 ●私は人並みの能力がある

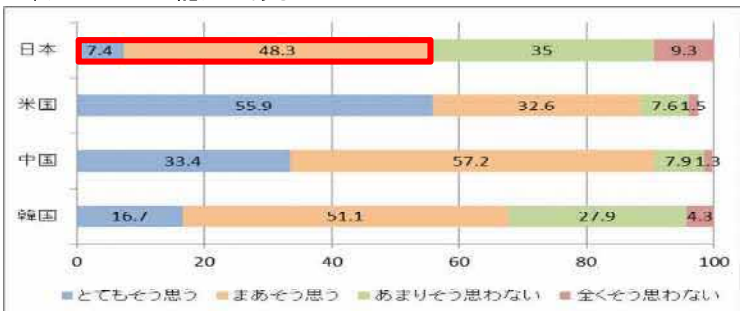


図2 ●自分はダメな人間だと思うことがある



図3 ●私は人並みの能力がある

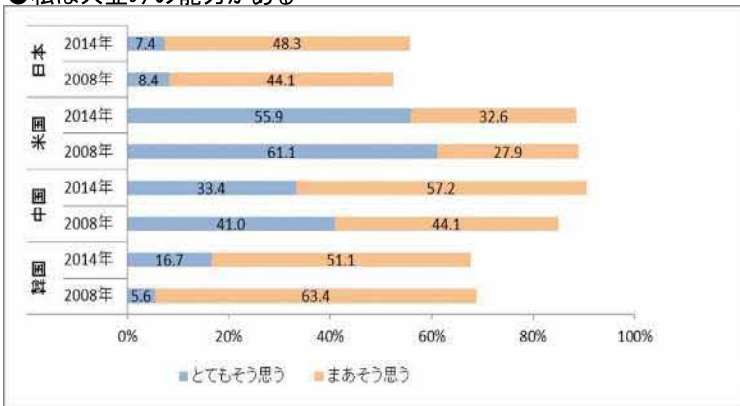
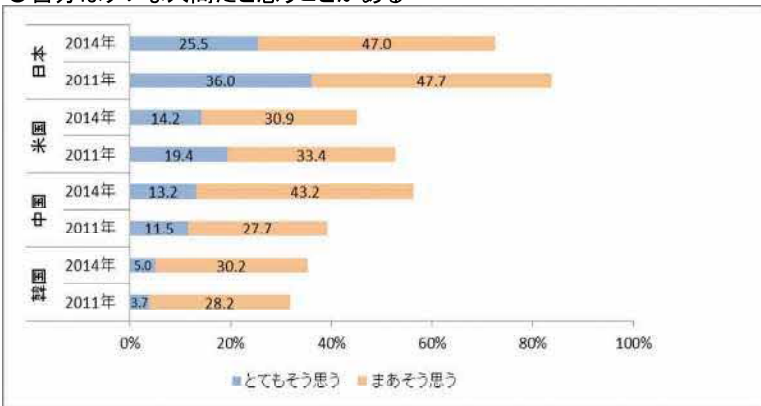


図4 ●自分はダメな人間だと思うことがある



※ 平成26年度 高校生の生活と意識に関する調査(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の結果から作成。各図の数値の単位は%。

2-2 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」における国際比較

○ 日本の子供たちの自分自身への満足度は諸外国に比べて低い。
○ 「自分は役に立たないと強く感じる」子供たちの割合は諸外国と比べて、必ずしも低い状況ではない。

図5 ●私は、自分自身に満足している

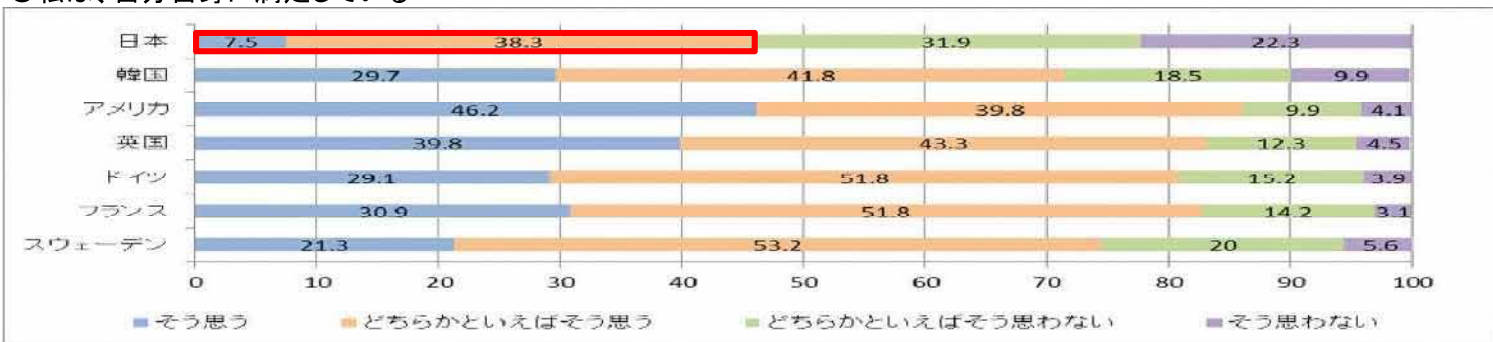
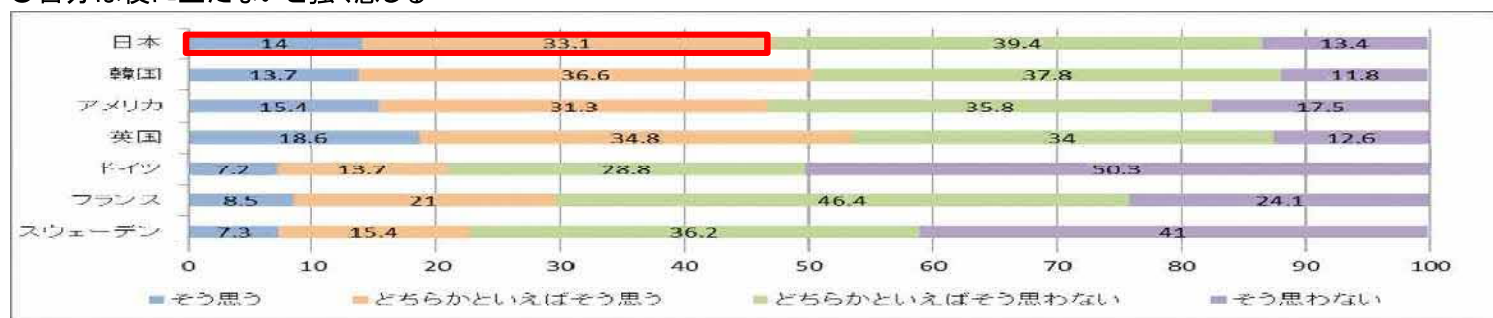


図6 ●自分は役に立たないと強く感じる

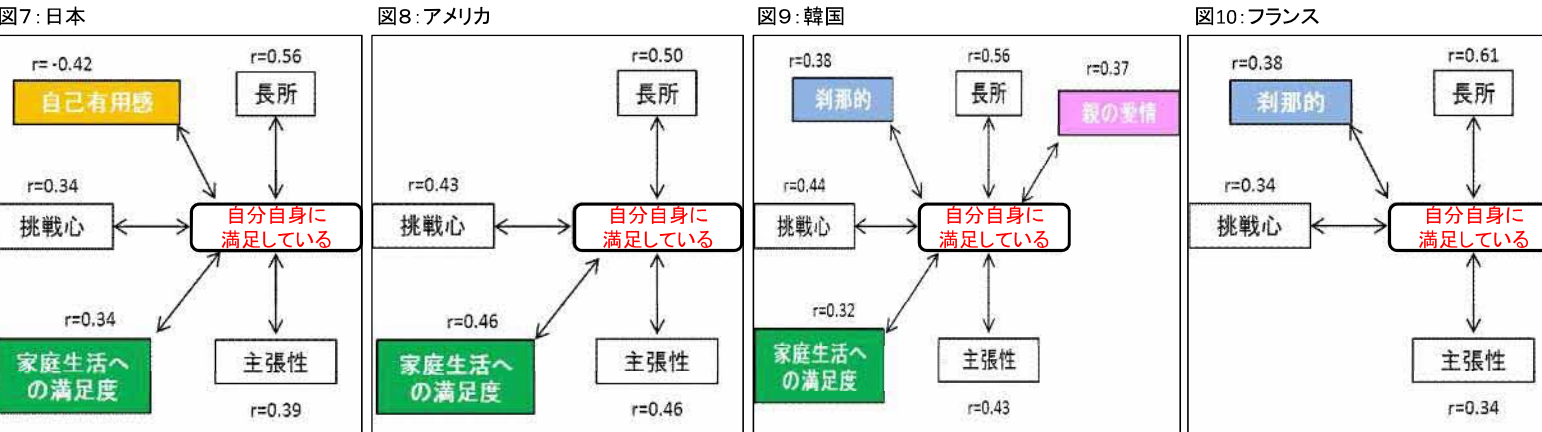


※ 平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(内閣府)の結果から作成。各図の数値の単位は%。

3-1 諸外国と比べた我が国の子供たちの自己肯定感

分析方法
内閣府が実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成25年)」の結果において、自己肯定感に関する項目とその他の項目とでクロス集計を実施。

分析結果①
各国とも自己肯定感に関する項目(「**自分自身に満足している**」)と「**長所**」、「**挑戦心**」、「**主張性**」に関する項目(自己の中にある対自的なもの)は**共通して関係がみられる**が、日本においては「**自己有用感**」に関する項目(他者との関係の中にある対他的なもの)が**他国に比べ強い関係がみられた**。



※上記の属性に関する具体的な質問項目は以下のとおり。なお、「r」の値は、項目間の関係の強さを示すものである。
 長所:「自分には長所があると感じている」、挑戦心:「うまくいかわからないことも意欲的に取り組む」、
 主張性:「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」、自己有用感:「自分は役に立たないと強く感じる(逆転項目)」、
 親の愛情:「自分の親から愛されている(大切にされている)と思う」、刹那的:「今が楽しければよいと思う」
 家庭生活への満足度:「家庭生活に満足している」

※図7~10は「加藤弘通 2014 自尊感情とその関連要因の比較:日本の青年は自尊感情が低いのか?」、平成25年度「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(内閣府)から作成。

3-2 諸外国との比較分析からの考察

- ① 有識者ヒアリングにおいて、日本の自己肯定感が低いことについては、**他者との比較の上で回答している可能性もあり、自分の状況を客観視できていることの表れ**であるとも考えられることから、**必ずしも否定的にとらえる必要はない**という意見もあった。
- ② 一方で、自己肯定感が低いことが、他者との比較の中で、**過度に「自分に自信が無い状況」や「自分を無価値な存在だと感じること」**の表れである可能性もあり、この観点からは、
 - ・日本従来の特徴、良さである「他者との関係の中での自己」としての「**自己有用感**」、
 - ・「自己評価・自己受容」としての「**長所**」や「**挑戦心**」、
 - ・「自己主張・自己決定」としての「**主張性**」

といった意識をバランス良く育み、子供たちの自己肯定感を高めていくことが重要である。

4 既存調査を用いた我が国の子供たちの自己肯定感に関する分析

分析方法

各種調査における自己肯定感に関する項目（「自分には、よいところがある」、「今の自分が好きだ」等）と、その他の項目とのクロス集計を実施し、それぞれの調査の分析において、自己肯定感に関する項目と関係がみられるその他の項目について、分析を行った。

分析に用いた調査について

調査名(実施年度)	自己肯定感に関する項目
1. 全国学力・学習状況調査(平成28年度)	自分には、よいところがある
2. 青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度)	今の自分が好きだ
3. 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成25年度)	自分自身に満足している
4. 高校生の生活と意識に関する調査(平成26年度)	人並みの能力がある／自分自身に満足(不満)／ダメな人間だと思ふことがある

※①は文部科学省、②、④は独立行政法人国立青少年教育振興機構、③は内閣府が実施

※各種調査の調査対象は以下のとおり。

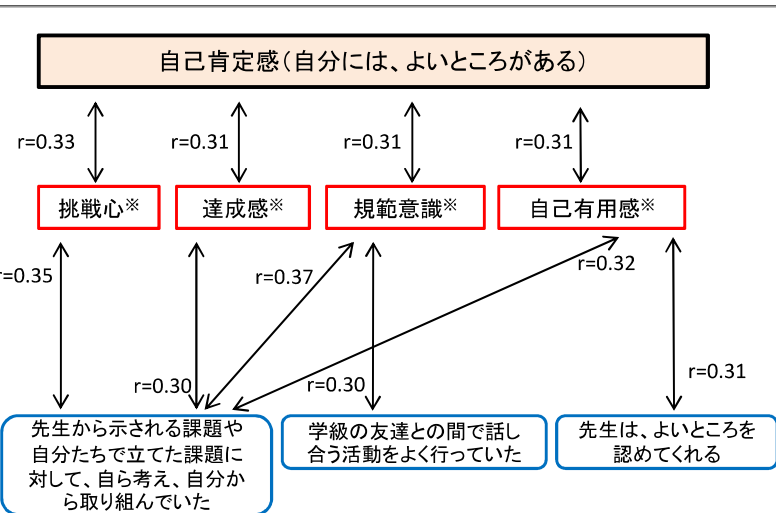
- ①: 国内の小学校6年生、中学校3年生
- ②: 国内の小学校4年生～6年生、中学校2年生、高等学校2年生
- ③: 日本、アメリカ、韓国、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンの13歳～29歳の青少年
- ④: 日本、アメリカ、中国、韓国の高等学校1年生～3年生

5 既存調査を用いた自己肯定感に関する分析結果

分析結果②

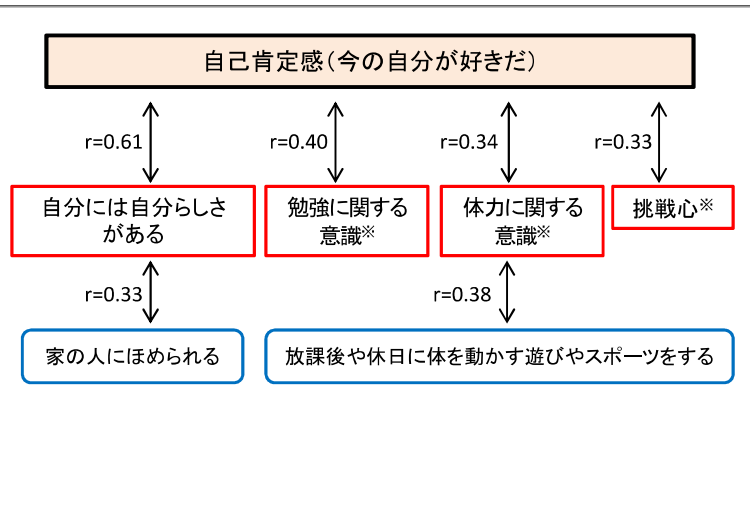
各調査において、「自己肯定感に関する項目と子供の意識に関する項目(赤枠)」、「子供の意識に関する項目(赤枠)と他の項目(青枠)」との関係については、図11～14に示す関係がみられた。

図11(全国学力・学習状況調査)



※上記の属性に関する具体的な質問項目は以下のとおり。
 挑戦心 : 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、
 達成感 : 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」、
 規範意識 : 「人が困っているときは、進んで助けている」、
 自己有用感 : 「人の役に立つ人間になりたいと思う」

図12(青少年の体験活動等に関する実態調査)



※上記の属性に関する具体的な質問項目は以下のとおり。
 勉強に関する意識 : 「勉強は得意な方だ」、
 体力に関する意識 : 「体力には自信がある」、
 挑戦心 : 「困ったときでも前向きに取り組む」

※「r」の値は、項目間の関係の強さを示すものである。

※図11については、小学校6年生の結果を示したもので、中学校3年生においても自己肯定感(自分には、よいところがある)と「挑戦心」、「達成感」について関係がみられ、「挑戦心」については、「先生から示される課題や自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」等の項目に関係がみられた。

※項目間の関係の強さについては、異なる調査間での比較はできない。

図13(我が国と諸外国の若者の意識に関する調査)

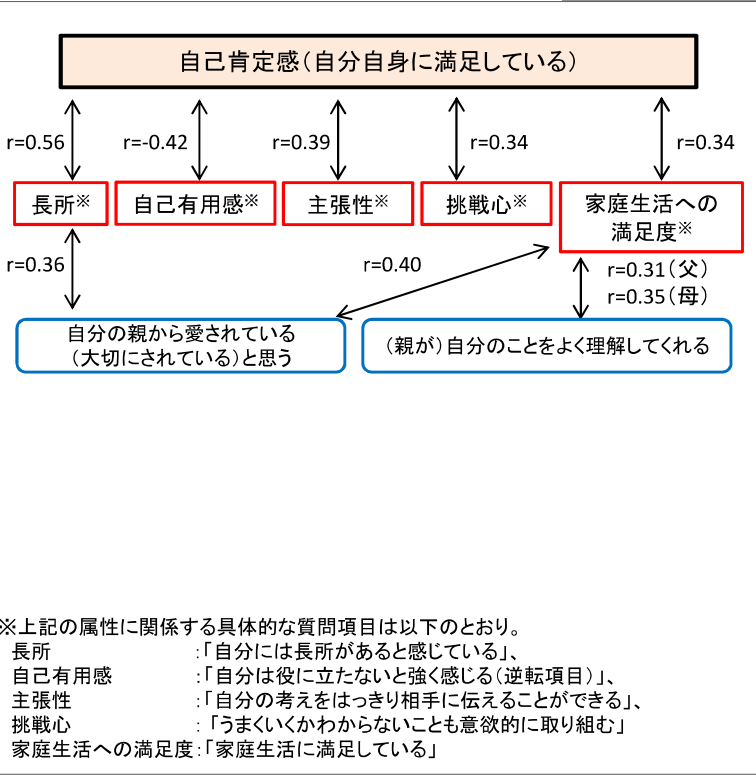
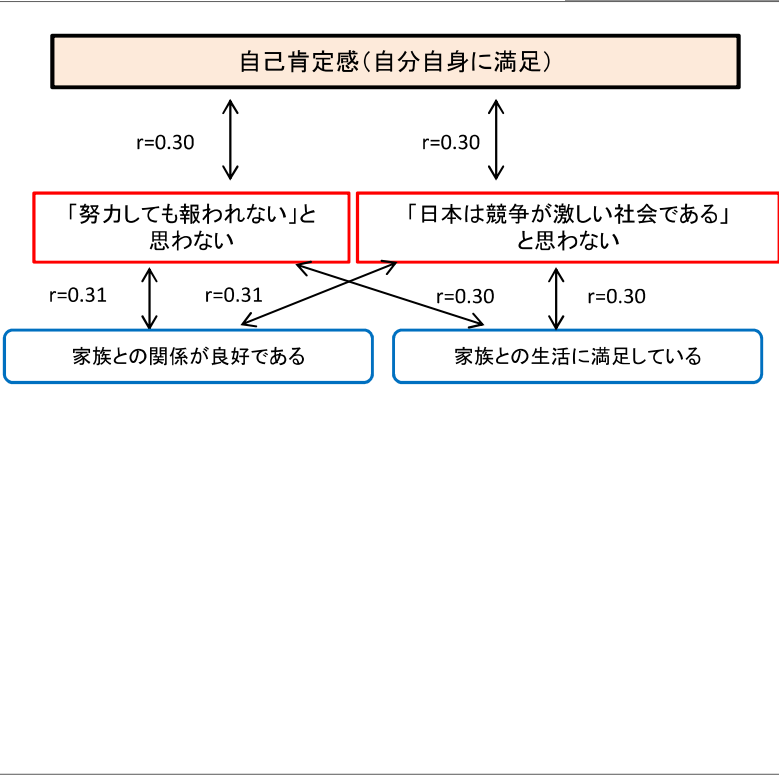


図14(高校生の生活と意識に関する調査)



※「r」の値は、項目間の関係の強さを示すものである。
 ※項目間の関係の強さについては、異なる調査間での比較はできない。

6 既存調査の分析結果等を踏まえた考察

(1) 自己肯定感と子供たちの意識について

各調査における自己肯定感に関する項目について、以下の関係がみられた。

(自己肯定感関連項目: 自分には、よいところがある)

自己肯定感が高い方が、「**挑戦心**」、「**達成感**」、「**規範意識**」、「**自己有用感**」に関する意識が高い。

(自己肯定感関連項目: 今の自分が好きだ)

自己肯定感が高い方が、「**自分には自分らしさがある**」、「**勉強に関する意識**」、「**体力に関する意識**」、「**挑戦心**」に関する意識が高い。

(自己肯定感関連項目: 自分自身に満足している)

自己肯定感が高い方が、「**長所**」、「**自己有用感**」、「**主張性**」、「**挑戦心**」「**家庭への満足度**」に関する意識が高い。

(自己肯定感関連項目: 自分自身に満足(不満))

自己肯定感が高い方が、「**努力しても報われない**」、「**日本は競争が激しい社会である**」と思っていない。

特集1 日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～

調査結果のポイント

- 日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自身を肯定的に捉えている者の割合が低い傾向にあるが、日本の若者の自己肯定感の低さには自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっていること
- 日本の若者は、諸外国の若者と比べて、外国留学や外国居住を望む者の割合が低い傾向にあること
- ボランティア活動の経験者や自分自身に満足している者の中には、外国留学を希望する者が多い傾向にあること

1 はじめに

- 内閣府では、我が国と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を把握し、子供・若者の育成支援に関する施策の参考とするため、平成30（2018）年度に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（図表1）を実施した。
- 今回の特集では、この調査の結果から見えてくる日本の若者の意識を、人生観関係、国家社会関係、職業関係、学校関係の4つの項目について、諸外国の若者の意識と比較し、日本の若者の意識の特徴等について紹介する。

図表1 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）の概要

調査目的	我が国の若者の意識と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を的確に把握し、子供・若者育成支援施策の検討の参考とすることを目的とする。		
調査領域	(1) 人生観関係 (2) 国家・社会関係 (3) 地域社会・ボランティア関係 (4) 職業関係 (5) 学校関係 (6) 家庭関係		
調査対象国	日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン		
調査対象者	各国満13歳から満29歳までの男女		
調査時期	平成30年11月～12月		
調査方法	インターネット調査 (調査会社に登録しているモニターに対し、インターネットを利用して調査票を配信し、回答を依頼) ※13～14歳については、保護者に調査協力の可否を確認後、協力可能と回答した子供を対象 ※15～17歳についても、保護者に調査協力を依頼し、その子供から回答を得た場合がある。		
回答数等	国名	回答数	使用言語
	日本	1,134	日本語
	韓国	1,064	韓国語
	アメリカ	1,063	英語
	イギリス	1,051	英語
	ドイツ	1,049	ドイツ語
	フランス	1,060	フランス語
スウェーデン	1,051	スウェーデン語	

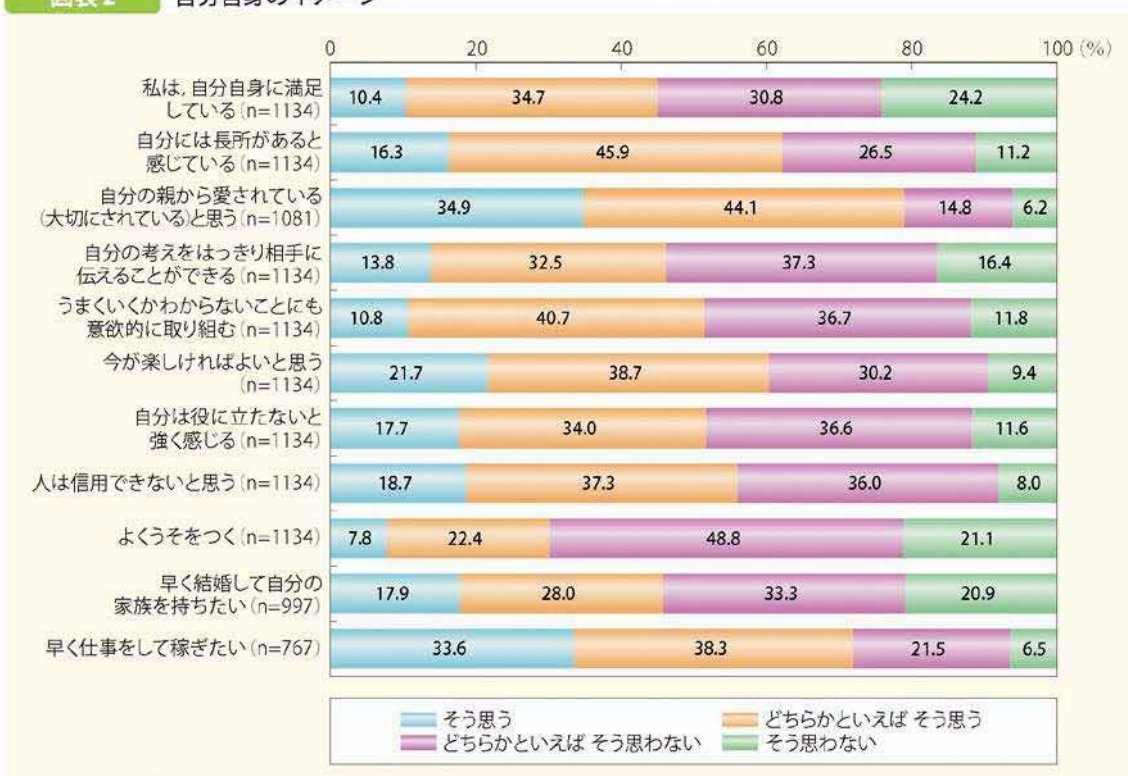
(注) 昭和47（1972）年以降5年ごとに行われてきた「世界青年意識調査」の後継となる調査として、平成25（2013）年以降、調査方法・対象・項目などを見直しを実施。

2 人生観関係

(1) 自己認識

○日本の若者で、自分自身のイメージについて、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、「自分の親から愛されている（大切にされている）と思う」の79.0%が最も高かった。次いで高かったのは、順に、「早く仕事をして稼ぎたい」の72.0%、「自分には長所があると感じている」の62.3%であった。（図表2）

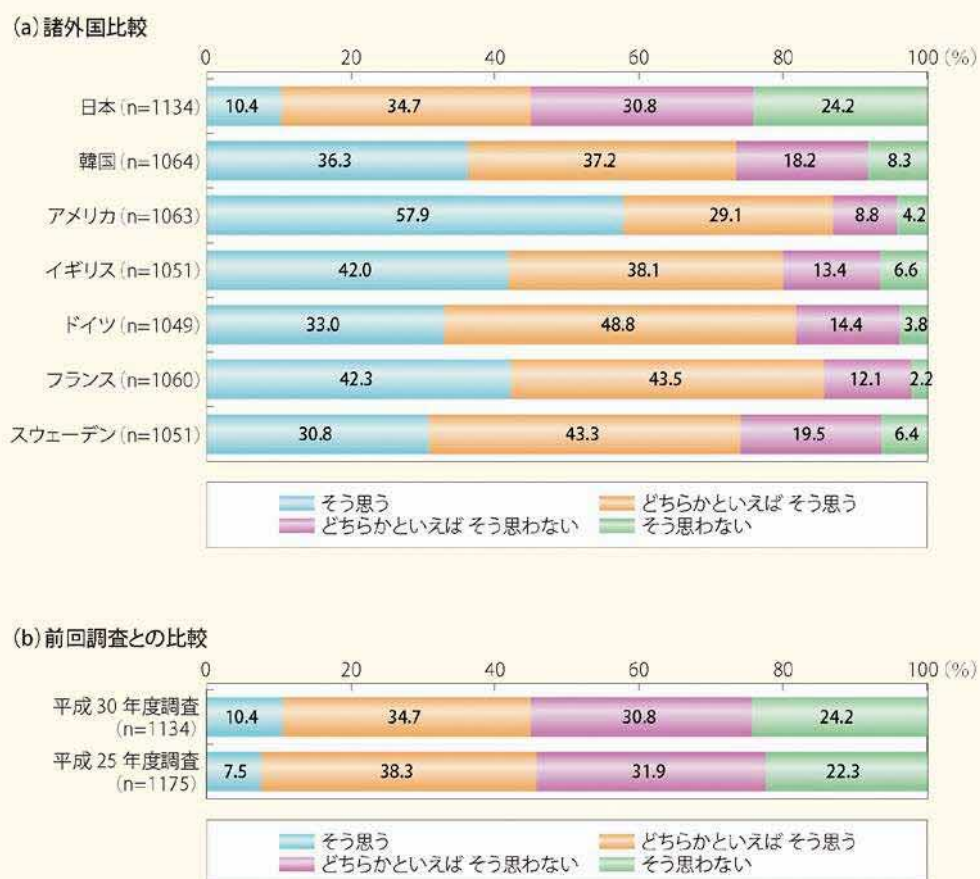
図表2 自分自身のイメージ



○また、日本の若者で、自分自身のイメージの中で、「自分自身に満足している」と「自分には長所があると感じている」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、それぞれ45.1%と62.3%であったが、この割合はいずれも同様の回答をした諸外国の若者の割合と比べて低かった。このうち、日本の若者で、「自分には長所があると感じている」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、平成25年度の調査時よりも6.6ポイント低かった。(図表3、図表4)

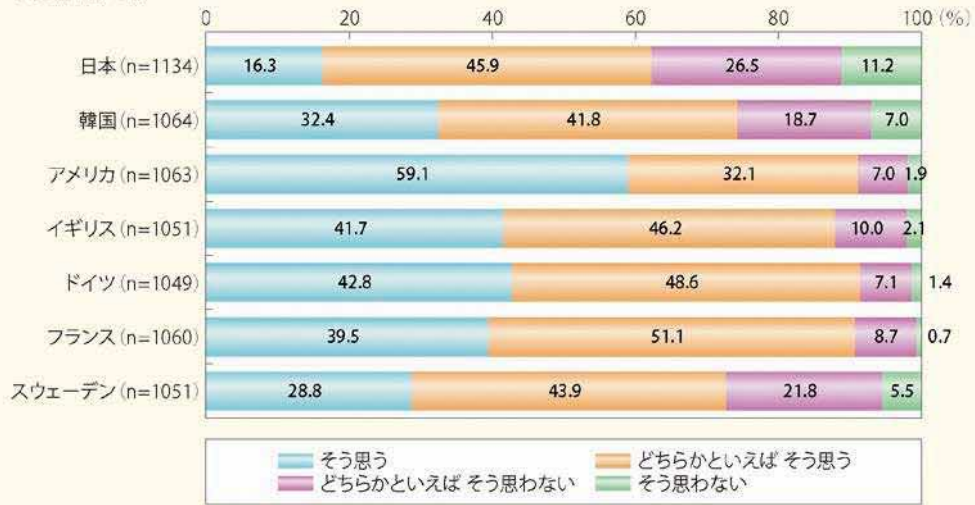
○このように、日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自分自身に満足していたり、自分に長所があると感じていたりする者の割合が最も低く、また、自分に長所があると感じている者の割合は平成25年度の調査時より低下していた。

図表3 自分自身に満足している

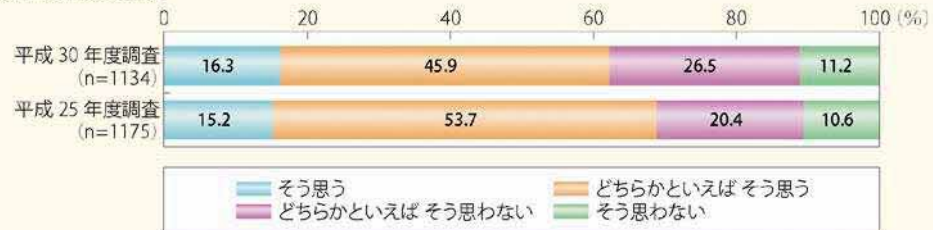


図表4 自分には長所がある

(a) 諸外国比較

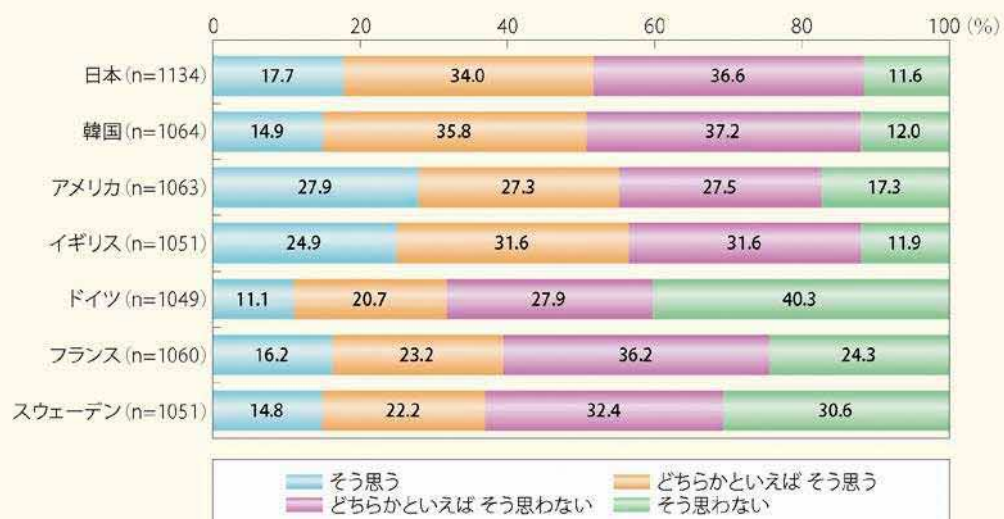


(b) 前回調査との比較

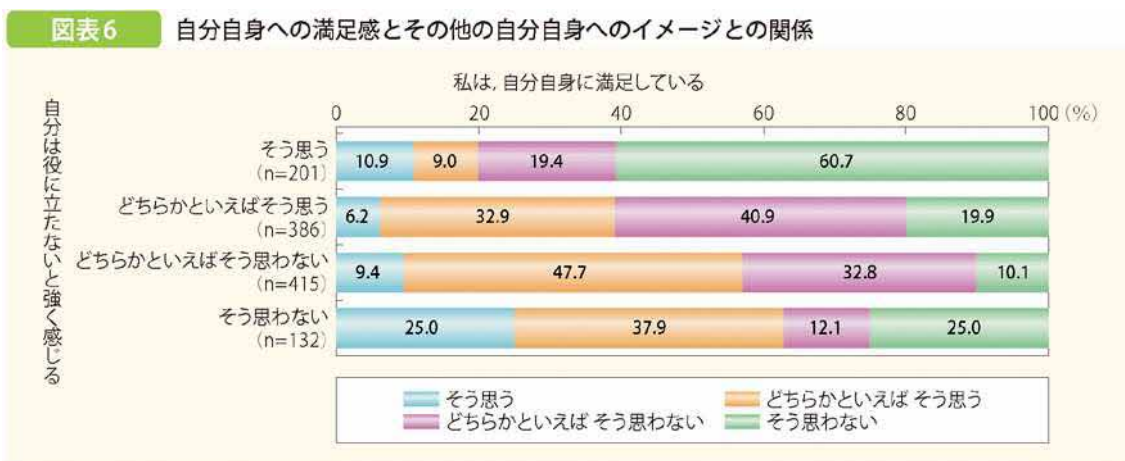


○一方、日本の若者で、「自分は役に立たないと強く感じる」に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は51.8%であり、これはドイツ、フランス、スウェーデンに比べると高いが、アメリカ、イギリスよりは若干低く、韓国と同程度であった。（図表5）

図表5 自分は役に立たないと強く感じる



○自分自身への満足感とその他の自分自身のイメージとの関係についてみると、日本の若者は、「自分は役に立たないと強く感じる」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者ほど、「自分自身に満足している」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が低かったが、諸外国の若者に同様の関係は認められなかった¹。(図表6)



○このように、日本の若者は、自分が役に立たないと強く感じている者ほど自分自身に満足している者の割合が低かったが、同様の関係は諸外国の若者の意識には認められなかった。

¹ 北海道大学大学院教育学研究准教授 加藤弘通氏の分析結果による。

PISA調査とは

- 義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査。
- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、おおむね3年ごとに調査実施。各回で3分野のうちの1分野を順番に中心分野として重点的に調査。
- 2015年調査より、筆記型調査からコンピュータ使用型調査(CBT)に移行。
- 平均得点は経年比較可能な設計。
 - ※平均得点を比較する場合は、数値の差を見るだけでなく、統計的に意味のある差（有意差）の有無の確認が重要。
- 3分野の調査結果を生徒や学校が持つ様々な特性との関連によって分析するため、質問調査（生徒質問調査、ICT活用調査（生徒対象）、学校質問調査）も併せて実施。

<PISA2022について>

- 81か国・地域から約69万人が参加。日本からは、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校（学科）、約6,000人が参加（2022年6月から8月に実施）。
- 中心分野は、数学的リテラシー。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年に予定されていた調査を2022年に延期して実施。

PISA2022の結果概要（日本）

3分野（数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー）

- 数学的リテラシー（1位/5位）、読解力（2位/3位）、科学的リテラシー（1位/2位）3分野全てにおいて世界トップレベル。前回2018年調査から、OECDの平均得点は低下した一方、日本は3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇（統計的には、読解力及び科学的リテラシーは有意に上昇、数学的リテラシーは有意差はない。）。
- ※（）の左側はOECD加盟国中、右側は全参加国・地域中における日本の順位。
- 今回の結果には、新型コロナウイルス感染症のため休校した期間が他国に比べて短かったことが影響した可能性があることが、OECDから指摘されている。このほか、
 - ・学校現場において現行の学習指導要領を踏まえた授業改善が進んだこと
 - ・学校におけるICT環境の整備が進み、生徒が学校でのICT機器の使用に慣れたこと
 などの様々な要因も、日本の結果に複合的に影響していると考えられる。
- 読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層（習熟度レベル1以下）の割合が有意に減少し、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層（習熟度レベル5以上）の割合が有意に増加。

社会経済文化的背景と平均得点

- 社会経済文化的背景（ESCS）の水準が高いほど習熟度レベルが高い生徒の割合が多く、低いほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い傾向が見られることは、OECD平均と同様の傾向。
- 一方、数学的リテラシーの平均得点が高い国の中では、日本はESCS水準別に見た数学的リテラシーの得点差が小さい国の一つで、かつ、ESCSが生徒の得点に影響を及ぼす度合いが低い国の一つ。

新型コロナウイルス感染症の影響～2018-2022年における「レジリエントな」国・地域～

- OECDが分析する「レジリエントな」国・地域（※1）は4つ（※2）で、日本はその1つ。

（※1）以下の3つの側面全てにおいて安定又は向上が見られた国・地域（→詳細はP.13）

- ①数学の成績（数学的リテラシーの得点の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）
- ②教育におけるウェルビーイング（学校への所属感の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）
- ③教育の公平性（公平性の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

（※2）日本の他、韓国、リトアニア、台湾。

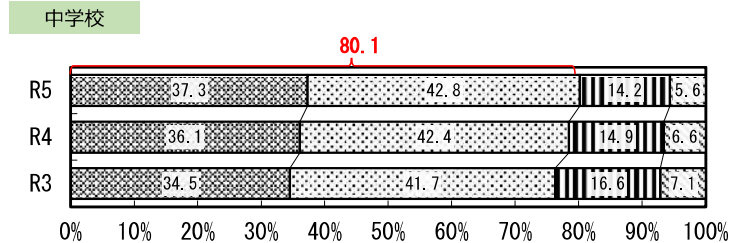
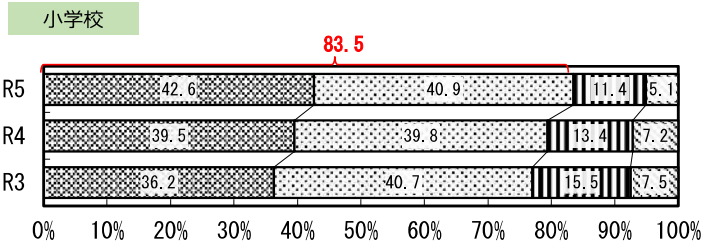
(4) 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

分析結果のポイント

- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問に対して、約90%の児童生徒が肯定的に回答している。
- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びに関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問の間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある。

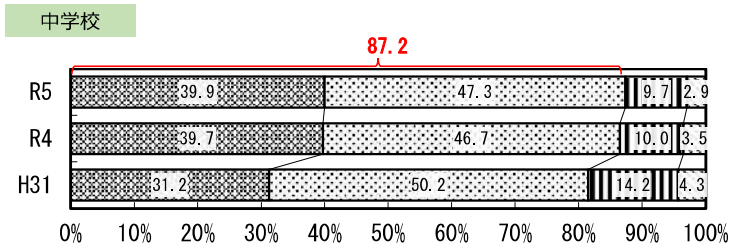
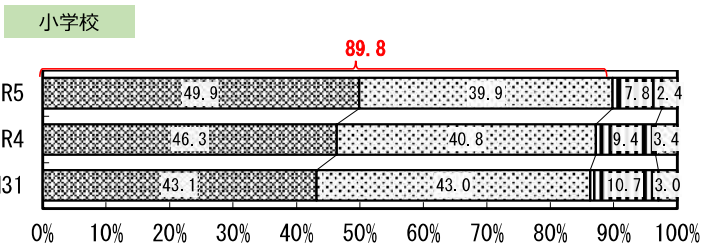
【児童生徒】自分には、よいところがあると思いますか。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



【児童生徒】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



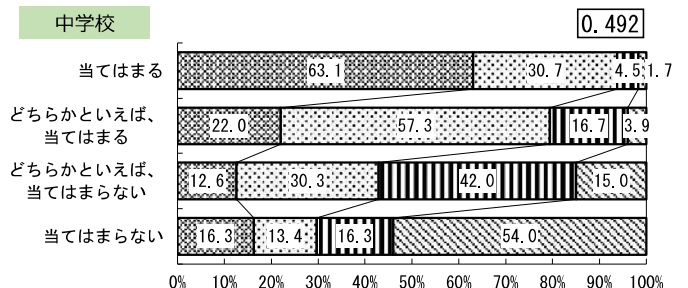
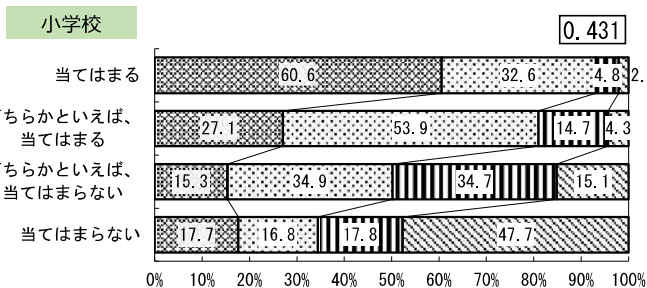
【先生がよいところを認めてくれる】 × 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

クロス集計

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

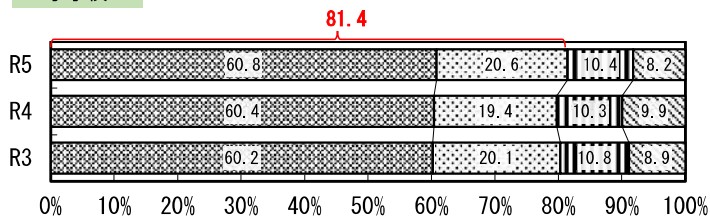


【児童生徒】 将来の夢や目標を持っていますか。

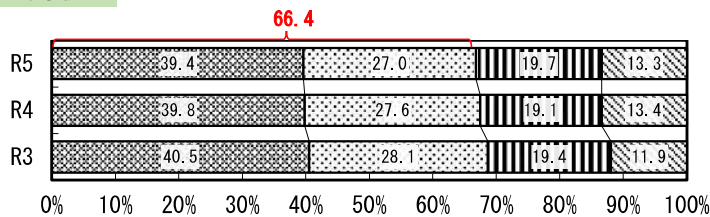
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校

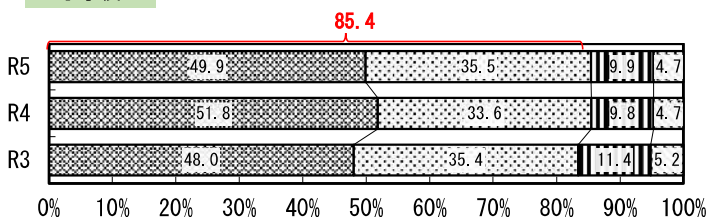


【児童生徒】 学校に行くのは楽しいと思いますか。

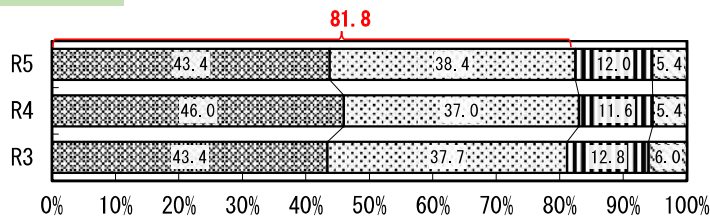
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校

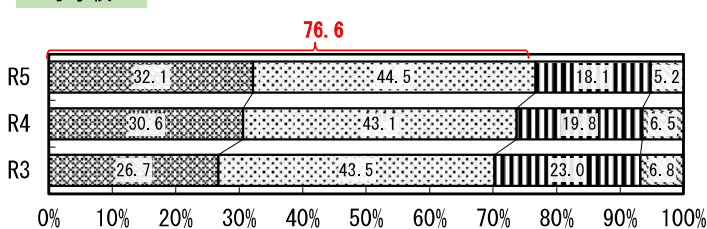


【児童生徒】 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

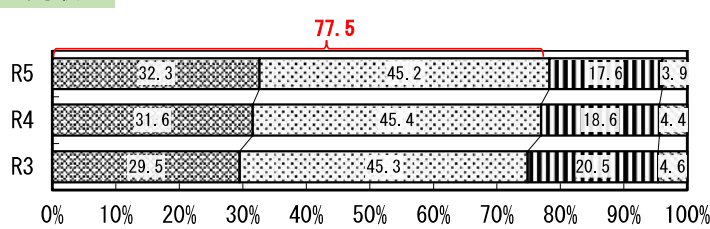
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校

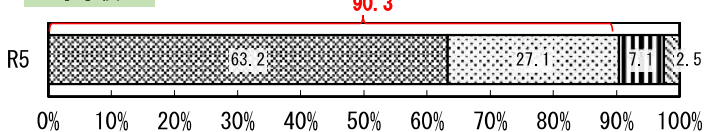


【児童生徒】 友達関係に満足していますか。（新規）

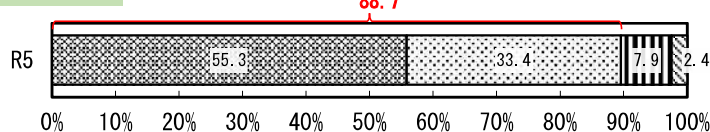
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



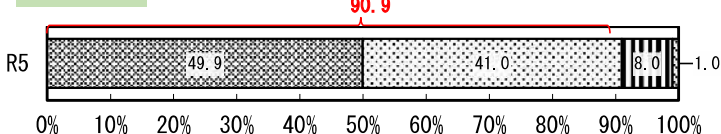
中学校



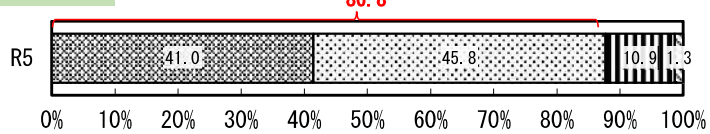
【児童生徒】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。（新規）

■ よくある ■ ときどきある ■ あまりない ■ 全くない

小学校



中学校

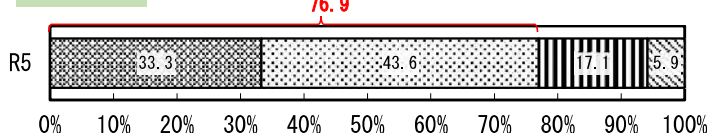


【児童生徒】 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。（新規）

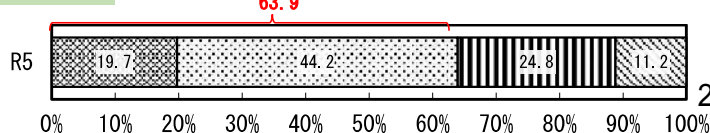
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校

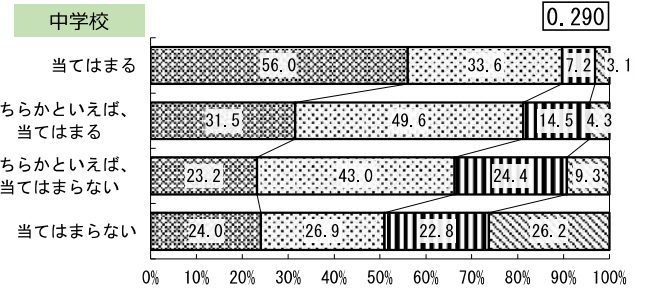
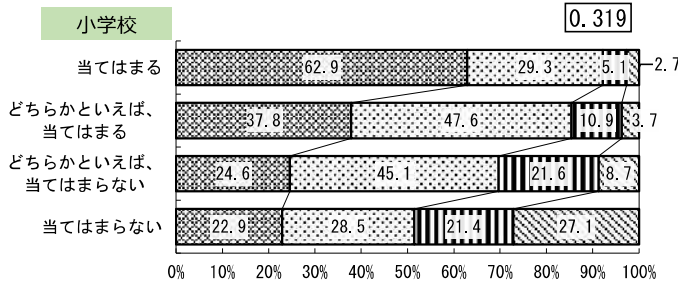


【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】×【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

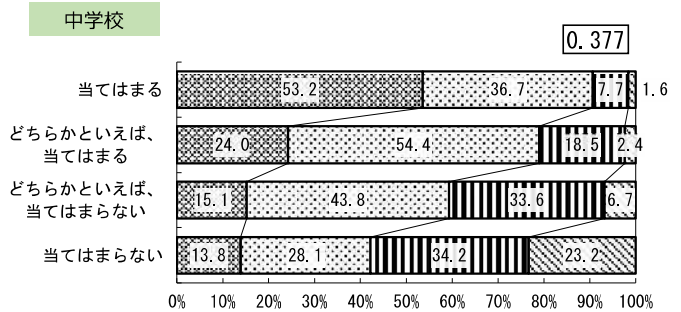
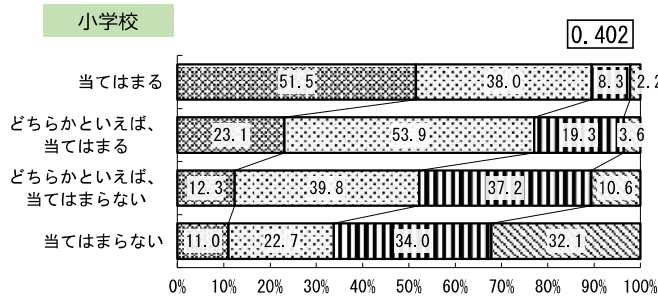


【話合いにより考えを深め広げた】×【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

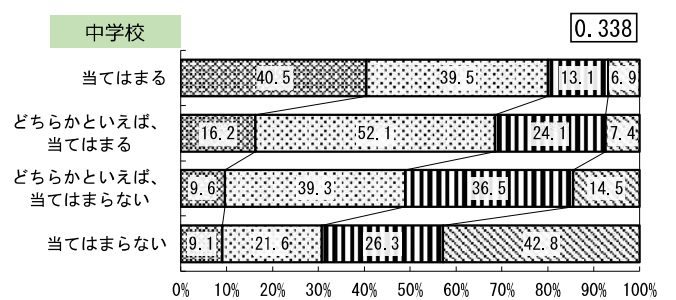
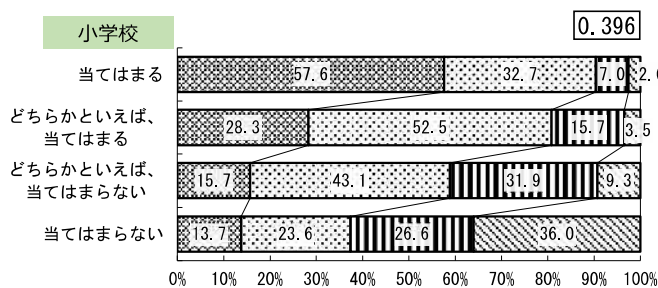


【学んだことを生かしながら考えをまとめる活動をした】×【地域や社会をよくするために何かしてみたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか



【自分にあつた授業】×【学校に行くのが楽しい】

学校に行くのが楽しいと思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか

